

合格者の声

今年も多くの皆さんから喜びの声が寄せられています。

A.T.さん

◆ International School Bangkok
(タイ)

早稲田大学政治経済学部経済学科
(グローバル入試)



出願書類の作成時には、カウンセラーや講師からのサポートを受けて、とても良いものに仕上げることができました。出願書類を、より自分色に仕上げるために、いままでどのような活動をして、その経験を通して何を感じたの

か、そういった流れを常に意識して書類を作成しました。

また、とくに大変だったのは、筆記テストである小論文の読解力を身につけることです。私は、課題論文のトピックによってスコアの影響を受けやすかったため、それを克服するために常日頃から朝日新聞を読み、さまざまな時事問題の知識を蓄えることに力を入れました。

皆さんも、たとえゴールを見失いそうになっても「努力すれば必ず実る」という信念を持って、コツコツとやり続けることで、納得のいく結果を得られると思います。頑張ってください。

A.K.さん

◆ Overseas Family School
(シンガポール)

国際基督教大学教養学部
アーツサイエンス学科 (帰国子女入試)



「社会に関心を常に抱くべき」というカウンセラーさんの助言により、海外在住時から毎日新聞を読み、気になった記事を切り取り、自分の意見をノートに記録していました。そのおかげで、面接の際に過去と現在を比較しながら、社会情勢について自分の意見を述べられた点は良かった

たなと思います。また、英語のスコアを伸ばすことにも必死で取り組みました。

日本での私の英語は「do/did/done」の違いもわからないほど壊滅的でした。そこで、海外に飛び立つ前に中高で習う英文法全般を徹底的に復習し、現地では英語で英語を学ぶこと、英語の先生にパーソナルセッションを依頼し、毎週、歴史や女性参画について英語で議論するなど、さまざまな努力をしました。その結果、TOEFLテストのスコアが50点アップしました。

私のように英語が壊滅的な方でも、2年あればトップ校を目指せるほどに成長できます。Do Your Best。応援しています。

F.K.さん

◆ The Storm King School
(アメリカ)

同志社大学グローバル地域文化学部
アメリカコース (学校推薦型選抜)



私は高校生活をアメリカで送り、帰国後は日本の大学への進学を決意しました。現在は推薦入試が主流となっており、その準備に費やす時間は少なかったものの、小論文は馴染みの薄い日本語で書かなければならず、言い回しや論理構成、漢字の使用に苦心しました。

そして、受験の結果は続けざまに「不合格」という厳しい現実と直面することとなりました。そんな中で、カウンセラーの先生による継続的な励ましと、さまざまな困難への具体的な対処方法のアドバイスにより、最後まで諦めることなく挑戦し、やり抜くことができました。

これから高校から大学へ進学する方々、また私と同じように海外から日本の大学への進学を考えている方々は、見えない結果に不安を感じるかと思います。しかし、トフルゼミナールの先生方を信頼し、自分の歩みに自信を持ち、支えてくださった両親への感謝を忘れなければ、必ずや良い結果を掴めると思います。皆さん、最後まで頑張ってください。

A.T.さん

◆ Alpharetta High School
(アメリカ)

上智大学外国語学部英語学科 (公募制推薦)



出願書類について、主に志望理由書などでは受ける大学と学部のリサーチを徹底的に行い、具体性を持って書き、大学にアピールできるようにしました。この対策は志望理由書に限らず、面接でも使えるので、教授や詳しい大学のコース名などを調べておくといいでしょう。

私が個人的に大変だったのは、TOEFLテストの点数を上げることです。もともとあまり点数が劇的に上がるテストではないですが「とくに上がることも下がることもない」という状況は精神的に辛かったです。ギリギリでIELTSに変更したのですが、点数が上がったので良い選択だったと思っています。

また、小論文などに関してはトフルゼミナールの講習で集中して書き、その場で先生に採点してもらうというサイクルを繰り返すことで、かなり文章を書く力が向上したと思います。長いようで短い受験期間ですが、悔いのないように全力を尽くして頑張ってください。

K.Y.さん

◆ Archbishop Riordan
High School (アメリカ)

国際教養大学 (総合型選抜入試Ⅱ)



AIUの受験準備は、自己アピール書の作成と面接対策から始まりました。先生方のアドバイスを受けながら、自分の強みを効果的に伝える方法を学びました。模擬面接を繰り返し、緊張感を和らげるコツや自己表現の方法も習得しました。

とくに大変だったのはIELTSのスコアを上げることで

す。毎日の勉強計画を立て、リスニングやリーディングの練習を続けることで、徐々に成績が向上しました。また、水泳部の部長として活動し、リーダーシップやチームワークの大切さも学びました。この経験は自己アピール書や面接で大いに役立ちました。

トフルゼミナールの講師やカウンセラーのサポートも心強く、試験直前の不安な時期には励ましの言葉をもらい、最後まで頑張ることができました。

これから受験を控えている後輩には、諦めずに努力し続けることを伝えたいです。どんなに難しい状況でも、自分を信じて一步一步前進してください。努力の先に必ず成功が待っています。